

（2003年3月14日定例評議員会同意、同25日定例理事会議決）

日本自然保護協会2003（平成15）年度事業計画書

NACS-J事業の中長期目標（2001年度専門委員会提言骨子）

2003年度事業・予算の基本方針

2003年度事業計画一覧

NACS-J事業の中長期目標（2001年度専門委員会提言骨子）

20世紀型公共事業に依存しない地域社会づくりへの要望の高まり、自然保護の対象の広がり、地方分権・市民参加・情報公開という行政変化等の時代背景を踏まえ、人と自然が共存する持続可能な社会の実現をめざす。

- (1) すべての法制度・行政システムを生態系と生物多様性の保全の視点から見直す。
- (2) 人と自然が共存する地域社会づくりのモデルを示す。
- (3) 自然保護施策に影響力を与える先駆的な調査研究のテーマを選ぶ。
- (4) 地域で自然の保全と回復に取り組む人材を養成する。
- (5) 国際的な自然保護のネットワークに参加する。

会員にとって高いサポート実感を持つ団体となるよう運営し、組織の基盤である個人会員数の倍増につなげる。

- (1) 会員となっただけでなく対象を、これまでの層に加え、一般的な環境問題に関心を持つ層やレクリエーション・アウトドア活動を含む自然をフィールドに活動している層にまで広げ、位置づける。
- (2) これらの人々が魅力と感じる業務展開を行い、一般の市民とは無関係という印象を与えかねないような組織の形式的な部分は改め、支持を得る対象として若い世代をも意識する。
- (3) NACS-Jのすべての活動内容を、わかりやすい表現で伝えていく。
- (4) NACS-Jへの資金支援自体が、意義あるものと実感できるような、しくみと事業を組

み立てる。

(5) 文字媒体(会報等)と電子媒体(ホームページ等)を有効に活用する。

(6) 広範な会員層を対象とした「参加型プログラム」を増やし、協賛企業や自然観察指導員に事業展開のための協力を求めていく。

## 2003年度事業・予算の基本方針

自然保護をとりまく社会状況・ニーズの変化に対応し、2003年度は主に次のことに重点をおいて事業を実施する。

(1) NACS-Jほか複数のセクターとの新しいパートナーシップスタイルで取り組む、2つの「総合プロジェクト」を新たに企画する。一つは、地域環境の持続的な保全・利用・管理の「モデル地域」づくりをテーマに群馬県三国山系・赤谷谷(あかやだに)で、もう一つは、地域環境の持続的な保全管理のための「コミュニケーションの枠組み」づくりを、国立公園特別保護地区である尾瀬で開始する。

(2) 継続的に取り組んできたプロジェクトは、各プロジェクトのテーマ・課題に沿った連携・共同化を図り、事業効果の向上に努めつつ実施する。

(3) 普通会员(個人)に重点をおく会員拡大にさらに努力し、広範な支援者層の獲得と財政基盤の拡大をめざす。

(4) 予算は、収支均衡を基本とし、会費・寄付金収入の手堅い獲得目標設定、新規事業への積立金の計画的活用、日常業務の効率化によるコスト削減等をもとに、昨年度の予算規模を維持する。

## 2003年度事業計画一覧

### 1.総合プロジェクト

#### (1) 赤谷(あかや)プロジェクト(仮称)

##### (基本目標)

これまで12年間にわたり大規模リゾートとダム開発に対する自然保護活動を行い、どちらも中止とすることができた群馬県三国山系・赤谷谷(赤谷川源流)の国有林で、地域の生物多様性を確実に保全し、複数の保護制度を駆使して地域環境の持続的な保全・利用・管理を行いうる、総合的な「保全モデル」を構築する。

赤谷谷を、NACS-Jの環境教育事業のホームグラウンドに設定し、会員を中心とするビジターに、自然環境に対し低負荷で、かつ高品質な自然体験の場を提供

できる、環境教育利用の「実践モデル」の構築を行う。

地域の環境管理計画を、地域スケールと全国スケールのNGOから共同提案し、地域社会にノウハウが蓄積される形での環境管理システムの構築と実行を、官民の新たな「パートナーシップ」の中で構築していくことを目指す。

事業カテゴリー	目 標	プログラム
研究系プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存モニタリング調査の再編成</li> <li>・林野庁コリドーモニタリング事業等との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体との連携による猛禽類繁殖状況モニタリング</li> <li>・植生復元等計画の検討</li> </ul>
保護系プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営会議の立ち上げ、基本方針</li> <li>・計画の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保全計画試案および活用エリア設定案の作成</li> </ul>
社会系プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会とのコミュニケーションのための新機構構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「モデル地域」となるための、プログラム・プロセス研究</li> </ul>
環境教育系プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育フィールドとしての可能性・適性の検討、プログラムの研究・実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然観察指導員講習会および指導員フォローアップ研修会の実験的開催</li> </ul>
会員拡大系プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通会員拡大事業への活用の研究・実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークプログラムの実施</li> <li>・インターンシップ制度等との連動による人材確保</li> </ul>

## (2) 尾瀬プロジェクト（仮称）

### （基本目標）

NACS-J発足のきっかけとなった尾瀬では、一昨年から、特別保護地区内の保護と利用の関係を現実に見直す機運が生まれている。この機会を活かし、尾瀬の持続的な保全とあるべき利用・管理のあり方を方向づけるために、これまでとは異なる「コミュニケーションのための枠組み」が必要となっている。尾瀬に関係する複数のセクターとのパートナーシップを確立し、これを満たす場の構築をめざす。

至仏山では、植生の荒廃を招いた、これまでの公園利用とその施設の根本的な改善が計画されつつあり、そのための検討会にNACS-Jも参画してきた。今年度は、改善の内容と方向性を定めるための現況把握と生態学的観点からの検討が行われる。この検討に参加し、生物多様性を保全するために有効な処方箋の構築をめざす。

事業カテゴリー	目 標	プログラム

研究系 プログラム	至仏山の現況把握、状況評価	調査計画策定、生物系・雪氷系調査、調査結果とりまとめ
保護系 プログラム	至仏山の理想的保全計画の策定	委員会参画、各種調査結果の統合、至仏山の保全システム提案
社会系 プログラム	コミュニケーションのための新機構構築	マスタープラン構築に向けての、コミュニケーション機構の提案

## 2.各部ですすめるプロジェクト

### (1)保護研究部が中心となって行う事業

事業	目標	プログラム
保護系プログラム		
海辺 (干潟・藻場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海辺生態系保全の重要性・必要性の明確化</li> <li>・保全のための法制度・行政システムのあり方への提案</li> <li>・各地域事例への取り組みの密な連携による活動効果の向上</li> <li>・活動のアピールによる社会の関心の向上と資金確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄本島泡瀬干潟および辺野古ジュゴン生息地の海草藻場の現状把握、両地域における開発計画の見直しへの働きかけ</li> <li>・東京湾三番瀬の再生計画検討委員会(千葉県)への参画による合意形成への協力</li> <li>・長崎県諫早干潟での「ありあけ大調査」の結果とりまとめ、干拓事業の見直しと干潟の再生への働きかけ</li> </ul>
河川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県川辺川・球磨川および八代海域一帯の保全価値の明確化とダム建設の中止</li> <li>・新しい河川環境保全・管理のあり方への提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川辺川・球磨川のアユ調査、およびダム建設が一帯の環境に及ぼす影響調査の結果とりまとめ、建設の見直しへの働きかけ、地域団体等の調査・保全活動への協力</li> <li>・淀川水系流域委員会(国土交通省近畿地方整備局)への参画による、新河川整備計画づくりへの関与</li> </ul>
特定地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NACS-Jが長年主体的に関わってきた個別地域への対応、保護問題の解決</li> <li>・地域団体等との連携・パートナーシップの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄本島やんばる、八重山諸島、小笠原諸島、愛知県海上の森等における自然保護問題の状況モニター、各種委員会への参画、地域活動への支援</li> </ul>

法制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種法制度・行政システムの生態系・生物多様性保全の視点からの見直しと改善への提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍の出版・ロビーイング等を通じた、野生生物保護に関する新たな法制度整備への働きかけ</li> <li>・種の保存法、鳥獣保護法、自然公園法、自然再生推進法、環境影響評価法等の適切な運用と改善に対する意見提出</li> </ul>
その他国内保護 (一部、J.INOUYE 基金事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NACS-Jが蓄積した知見・ノウハウの活用・提供を通じた、各地の自然保護問題の解決への支援</li> <li>・活動のアピールによる支援者拡大と資金確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地問題の状況モニター、情報の交換・提供、各種委員会等への参画、地域活動への支援・協力、それらにもとづく寄付支援の呼びかけ</li> <li>・保護研究関連の情報・人材データの整理・活用</li> <li>・「自然保護ライブラリー」の管理による会員への図書閲覧機会の提供</li> </ul>
国際(IUCN) (一部、藤原基金 事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IUCN(国際自然保護連合)による活動の国内での認知の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IUCN日本委員会の事務局・ホームページの運営</li> <li>・IUCN国際会議への対応</li> <li>・国際生物多様性情報の収集・翻訳(環境省請負)</li> </ul>
研究系プログラム		
植物群落RDB (レッドデータ ブック)モニタ リング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護地域の設定・保護施策の策定等への研究成果の反映</li> <li>・特に海岸・湿地の自然環境保全の必要性のアピール</li> <li>・モニタリング手法の確立とその体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物群落RDB追跡調査の実施、課題整理、書籍出版の準備</li> <li>・市民参加による海岸植物群落RDB調査の企画・実施</li> <li>・湿地植物群落RDB追加・追跡調査の実施</li> </ul>
里やま保全研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里やま地域における生態系モニタリング手法の確立</li> <li>・地域自然をモニタリングする市民と専門家のネットワークの構築</li> <li>・環境教育系プログラムとの連携による活動効果の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民参加による生態系モニタリングの調査手引きの作成、調査の試行</li> <li>・里やまふれあい活動データベースの再構築、研究成果の普及のための書籍出版の準備</li> </ul>

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 (自然保護助成基金との共同事業、PRO NATURA寄付事業)	・自然保護の調査研究・活動に取り組む国内外の団体への資金支援	・2003年度(第14期)助成の募集・審査 ・2002年度(第13期)助成の成果報告会開催 ・2001年度(第12期)助成の成果報告書の作成・配布
その他	・自然保護施策に影響を与える研究テーマの選定・実施	・小笠原村南島自然環境モニタリング調査(東京都受託・調整中) ・新規受託業務の獲得への働きかけ

## (2)普及広報部が中心となって行う事業

事業	目標	プログラム
広報系プログラム		
NACS-J広報	・NACS-Jの知名度向上と支援者拡大のための基盤づくり ・各プログラムとの連携による広報効果の向上	・NACS-Jホームページの管理・運営 ・各種印刷物のデザインイメージの統一(VI)コーディネート
会報「自然保護」発行	・NACS-Jと会員をつなぐ主要メディアとして、多様な会員層のニーズを踏まえた内容の充実	・年6回・2万部の発行 ・会報購読者の拡大への働きかけ ・誌面企画のPR等による資金の確保
環境教育系プログラム		
NACS-J自然観察指導員養成	・自然保護教育の普及・実践 ・地域での自然保護の担い手となる人材(ボランティアリーダー)の養成 ・普通会员拡大・研究系プログラムとの連携による事業効果の向上	・自然観察指導員講習会の開催(15回)、内容・開催回数の実質化の検討 ・講習会講師および講習会プログラムのレベルアップのための会議開催(1回) ・「講習会テキスト」の増補改訂 ・指導員フォローアップ研修会の開催(5回)、内容の実質化の検討 ・リスクマネジメント研修会の報告書の作成 ・「フィールドガイドシリーズ」新刊「海自然観察(仮称)」の出版、既刊「野外における危険な生物」の増補改訂 ・指導員連絡会等主催の活動や行

		<p>事への参加・協力、指導員活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員データの登録・管理・保護</li> <li>・地域での活動機会の提供(「自然しらべ2003(仮称)」、一斉かんさつ会等)</li> </ul>
自然保護教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然観察指導員以外のより広い層への自然保護教育の普及とそのシステムの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチ対象の抽出と普及プログラムづくりの検討</li> <li>・ブックレットタイプ書籍『自然保護とは何か?(仮称)』出版に向けた企画・準備</li> <li>・環境教育に関わる外部事業への協力・支援</li> </ul>
<p>会員拡大系プログラム</p>		
普通会員拡大 (一部、牧田基金事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通会員拡大による支援基盤の強化</li> <li>・参加の場の提供を中心とした入会プログラムの充実</li> <li>・紙媒体・電子媒体を活用した入会プログラムの充実</li> <li>・各プログラムのPRによる企業協賛寄付・個人募金寄付の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチ対象の抽出、ニーズの拾い出し、ニーズに合った入会プログラムづくりの企画・実行(協力企業の社員・学生を対象としたミニイベント・インドアセミナーの開催、一般を対象とした現地ツアーの実施)</li> <li>・イベント等外部事業への協力を通じた入会告知</li> <li>・アクションサポーターの登録システムの整備、サポーター活動のコーディネート</li> <li>・「メールマガジン」の発行</li> <li>・「フリーペーパー」の制作・配布構造の再構築</li> <li>・「入会パンフレット」の改訂・配布、配布協力者の拡大</li> <li>・「ミニ入会パンフレット」の作成(2種)</li> <li>・会員証の改訂・発行</li> <li>・「自然保護寄付パンフレット」の作成</li> </ul>

(3)管理部もしくは役員が中心となって行う事業

事業	目標	プログラム
<p>会員サービス・管理系プログラム</p>		

NACS-Jアイテム販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然保護や自然観察に関する情報・物品の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NACS-J刊行物の広報、主催行事・事務局での直接販売</li> <li>・カタログ通信販売(外部委託)の運営管理</li> </ul>
会員管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポート実感の持続への工夫等による会員数の維持、財政基盤の確保・強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通会员への継続依頼・インフォメーション、およびそのシステムの管理</li> <li>・賛助会員への継続依頼・インフォメーション、会員募集活動(外部委託)の運営管理</li> <li>・団体会員への継続依頼、入会パンフレットの作成・配布、入会の呼びかけ</li> <li>・会報「自然保護」の配布・寄贈</li> <li>・寄付サポーターへの「年次活動報告」の作成・配布、寄付支援の呼びかけ</li> <li>・賛助会員企業によるDM発送の受付(2回)等の会員データの活用</li> <li>・会員データベースシステムの改良</li> <li>・会員データの登録、確実な管理・保護</li> </ul>
日本自然保護協会 沼田眞賞	<p>自然保護や自然保護教育に関する研究・実践ですぐれた実績をあげた個人・グループの顕彰</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回受賞者の募集・選考・授与</li> </ul>
事業体制の整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員・寄付の拡大と活動力の向上につながる、地域組織との連携構造の構築</li> <li>・事業計画(体系・体制・業務構成)づくりの改善によるNACS-Jの社会的認知の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「契約型地域ネットワーク組織・構想(仮称)」の構築に向けた企画・試行</li> <li>・既存・継続業務の進行・成果状況の評価</li> <li>・事務局内コンピューターネットワークの改良、管理体制の整備</li> </ul>